

事後評価報告書

日本-中国 研究交流「地震防災」領域（支援期間:平成 24～26 年度）

1. 研究課題名：「巨大地震災害時における効果的災害対応を実現するための日中比較研究交流」

2. 研究代表者名：

日本側： 京都大学 防災研究所 教授 林 春男

相手側： 中国地震局 中国地震応急救援センター 副センター長 Guosheng QU

3. 総合評価： A

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

本研究は、地震多発国である日本と中国の地震対応事例を日中間で比較研究することにより、災害時の効果的な危機管理と災害情報システム、それと災害対応計画のあり方を解明し、人的・物的被害と経済的・社会的影響の軽減を目的としている。本研究では、日中の近年の大規模地震災害の事例調査、災害対応過程とキーイベントの同定、災害対応能力向上のための研修手法の検討、災害時救援における人的・物的資源計画策定手法の検討ならびに効果的な危機管理システムの構築を通して、災害事例研究に基づくタイムラインや評価モデル構築ならびにモデル適用ガイドラインの提案などに至っている点は具体的な成果として高く評価できる。また、その研究成果は中国側チームと共著による3報の原著論文として発表されており、学会賞も受賞していることから、今後、アジア各国に広く展開されることが期待される。

(2)交流活動の評価について

中国において 6 回のワークショップが開催されるなど、日中の研究者が密に交流を図り、前述の複数の論文執筆のほか、若手研究者の学位取得や研究論文の執筆にも力を注いでいる点は評価できる。今後とも若手研究者を中心とした一層の研究交流の活性化が期待できる。但し、中国では活発にワークショップを開催しているものの、日本国内では開催されなかったことは残念である。研究成果を日本国内の関連研究者等にも普及させる機会を設け、日本の若手研究者の研究能力の向上が図られるような取り組みが行われることを期待したい。